

2019 《前期》 構音指導講座

年中幼児からの側音化構音への指導 — 構音指導の基礎 —

ご注意：本講座は、2018年9月22日(土)・23日(日)に行われた講座の内容とほぼ同様の内容です。当方の手違いにより要項がダウンロードできなかったなどのご指摘をいただきましたので、改めて講座を開催させていただくこととしました。

また、今回は、/ki/や/ke/の構音(点)指導について、実際の指導の視聴と共に、解説も行う予定ですので、**2018構音指導講座**に参加された方のご参加も歓迎いたします。

おさそい

「今まで通級しても直らない。直すことを諦めることに踏ん切りをつけるために、今年は通級しよう」と相談し、6年生も通い続けることを決めた親子に出会いました。スポ少では柔道で活躍する女の子でした。

自分の名前に言いにくい発音があり、年中児から幼児のことばの教室、そして、小学校のことばの教室に、通算7年間もの間、週1回通級し、何一つ改善しないまま過ぎたとのことでした。そして、6年生になりました。前担当者から引き継ぎ、構音指導3回目、自分の名前が努力なしで普通に言えるようにしてあげました。先の言葉は、その時に母親から思わず出た言葉でした。当の本人は、涙を我慢するように天井を見上げ、噛み締めるように「要するに、前の先生は、指導が下手だったってだけの話よ！」と一言、しばらく歯を食いしばり天井を睨んでいました。

発音の問題は、側音化構音でした。側音化構音への指導ってそんなに難しいのでしょうか？

例えば「チ」の構音運動は、年中さんでも成人でも同じ構音運動です。ですから、年中さんへの構音(点)指導ができれば、小学生や成人に対する構音(点)指導は、もっと楽に指導ができるはずですよ。

また、[tʃ]の[t]は、[t a(た)]の[t]と同じ構音運動ですから、「た・て・と」が普通に言えていれば、たとえ「チ」の構音時に芋舌になり下顎の偏位があったとしても、舌そのものに対する指導は必要ないはずですよ。要は、[ta]や[te]や[to]から[t]が取り出せれば良いわけです。

「学齢期は劣等感に目覚める時期、不安や焦りなどの情緒性反応を示す……」との指摘もあります。ならば、先に紹介した女の子を二度と出さないためにも、幼児期からの指導に力を注ぐべきではないでしょうか。実は、幼児の構音指導って、本当は楽しく、遊び感覚でできるものなのですよ！

講座では、構音(点)の指導が、理屈ではなく生の指導(指導ビデオ)の視聴と解説を通して具体的に理解していただけるように考えました。皆様のこれからの指導の一助になればと思います。

山形言語臨床教育研究会 代表 梅村 正俊

主催：山形言語臨床教育研究会・親子ことばの相談室

開催期日：平成31年(2019)4月28日(日)10時～29日(月)16時30分

場所：山形テルサ(2階)：リハーサル室 山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

駐車場：山形テルサのHPでご確認ください

講師：梅村 正俊 親子ことばの相談室 及び さとみ矯正歯科クリニック非常勤：言語聴覚士

【参加費】 5,000円(当日) 参加募集定員：75名

【参加申込の締切】 4月22日(月) … 但、定員になり次第締め切り

尚、参加申込のFAX送信後、1週間経っても連絡がなければ『受付完了』とご理解下さい

【参加申込の方法】 指定の用紙に必要事項を記載しFAXまたは郵送にてお申し込み下さい

【問い合わせ先】 親子ことばの相談室 ※ お問い合わせは、全てFAXで

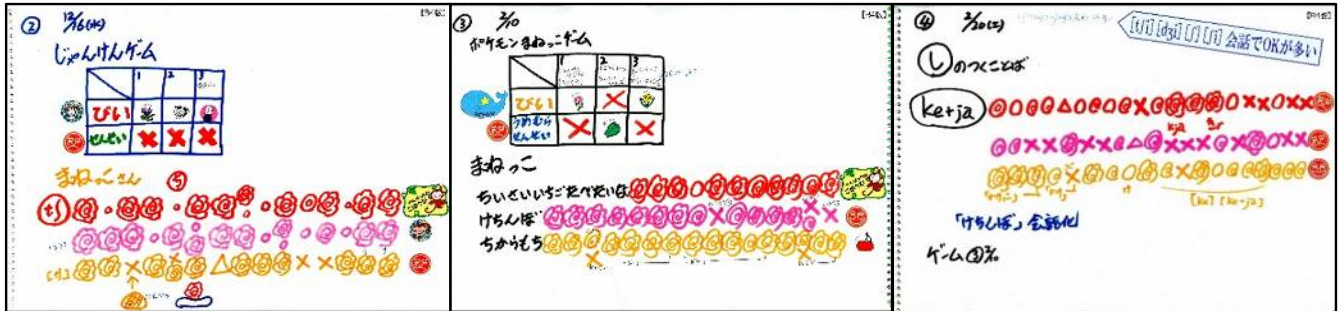
990-2483 山形市上町 5-11-24 FAX専用：023-646-6492

受付 9時30分～10時頃

10時頃～12時30分頃 「幼児の構音(点)指導の実際」=解説なしでの視聴

まずは、幼児であっても、いかに直す意欲はなくても、楽しく構音指導が受けられるか、そして[i]に側音化構音が認められても舌を平らにする指導や[i]からの指導が必要ないかを、素直に感じていただくと共に、指導全体の流れ、子どもへの指導者のかかわり方や構音(点)指導での指示の仕方等々、イメージ化していただければと思います。

- ① 年長女兒びいさん(通室10回終了)：通室2回目(Full=約37分)・3回目(Full=約43分)での「チ」の指導
HPからのレポートのダウンロード：低年齢児の『誤り構音』への指導 - 側音化構音への指導は、難しいわけじゃない -



※ びいさんの指導の視聴と解説は、後期講座の1日目午前に行います

- ② 年長女兒やすこさん(通室19回終了)：通室2～4回目での「ケ・キ」の指導(ダイジェスト約60分)
※ やすこさんの[ki・ke]の構音(点)指導の視聴と解説は、今回の2日目午後に行います

12時30分頃～13時30分頃 昼食(館内にレストランあり)・休憩

★ 全日程での講座の基本的な進め方

- ① 演習形式での進行が基本
- ② 質問がある場合は、講話の途中であっても、話をさえぎってでも質問して下さい!

13時30分～15時20分頃

∞ 構音(点)指導の基本 ∞

I 機能的構音障害としての側音化構音の理解

II 側音化構音時の構音運動を見てみよう

III 「構音を育てる」という観点からの構音指導 = 構音(点)指導の基本中の基本

◎ 構音指導に対する基本的なスタンス

- 幼児であっても大人であっても、構音(点)指導の基本は同じという理由
- LD児であっても、AD/HD児であっても、自閉的傾向がある子であっても構音(点)指導の基本は同じという理由
個性に応じた配慮が必要なだけ
- 側音化構音、声門破裂音、鼻咽腔構音等々、誤り方が違ってても、構音(点)指導の基本は同じという理由
- 構音点指導は「誤りの自覚がない」「直す意欲もない」子ども、むしろその方が、指導は楽で簡単だという理由

◎ 構音指導の基本は、模倣。幼児の場合、どのような関係が成立すると楽しく簡単に模倣してくれるの？

- 年齢や本人の通室目的・意欲による『楽しさ』『喜び』の違いは？「まねっこ」の言葉は、何歳児まで使用可？

◎ 側音化構音への指導に対する基本的なスタンス

- 機能的構音障害としての側音化構音に対する指導として、舌の体操などの指導は全く必要ない理由
- [i]に側音化構音が認められても、[i]から指導する必要がない理由
- 側音化構音と置換が混在する場合、側音から指導することが望ましい理由 etc

◎ 構音指導の指導プログラム(スモールステップと汎化) ※ 般化のタイミング = 指導の初期からいつでも

- プログラム上の指導内容はノルマではない。いかに効率よく段階を飛ばせるかが、早期終了のカギだという理由

◎ 「サイコロ一つあれば、構音指導の最初から終了まで指導ができる」と実践して、見せてくれた大先輩

- 幼児であっても、教材・教具を使用しない指導がベスト! 「サイコロひとつ」は、バターかな?

IV 構音(点)指導のまとめ = 幼児から成人までの構音(点)指導の基本は同じ

- 重要事項：終了判断 = 何気ない会話・寝言等々 = 無意識の発語での改善 !!

15時30分頃～15時40分頃：休憩

15時40分頃 ~ 18時頃

∞ 年中児まさき君への「チ」の指導 (通室56回終了)

まさき君の側音化構音の動態及び指導(初回~通室3回目)の動画をYouTubeにアップしました
指導の流れや雰囲気も構音点指導の重要な要素になりますが、「構音(点)指導」を重点に解説したいと考えていますので、指導の動画を1回でも視聴し、ご参加下さいますようお願い致します。

- 初回面接時(通室1回目)における構音検査の結果から(約30分)
 - ・ 誤り音の把握と側音の構音運動の観察
- 通室2回目(Full=約42分)の指導の視聴と解説
 - ・ 構音点指導への導入: “へんなべろとへんなおとのまねっこ” = 『模倣を楽しむ・褒められる』
- 通室3回目(Full=約46分)の指導の視聴と解説
 - ・ /tʃ/ の構音点指導: “はなまるいっぱい” “まねっこゲーム” = 『へんなまねっこ』から /tʃ/へ

18時頃 ~ 19時頃

夕食(館内にレストランあり)・休憩

19時頃 ~ 21時30分頃

- 通室4回目(Full=約49分)の指導の視聴と解説
 - ・ /tʃi/ の構音点指導: “まねっこゲーム” “シールゲット” = /tʃ/ から [tʃi] へ
- 通室5・6回目(ダイジェスト約45分)の指導の視聴と若干の解説
 - ・ /tʃi/ の構音指導: “じゃんけんゲーム” “まねっこさん” = 「tʃi」の習熟練習+自己修正

4月29日(月)

9時20分頃 ~ 11時頃

- 通室7回目(Full=約45分)の指導の視聴と解説
 - ・ 「チ」の構音指導: “まねっこさん” “すごろくゲーム” = [tʃi] から「ち」へ+語頭での練習と般化

11時頃 ~ 12時頃

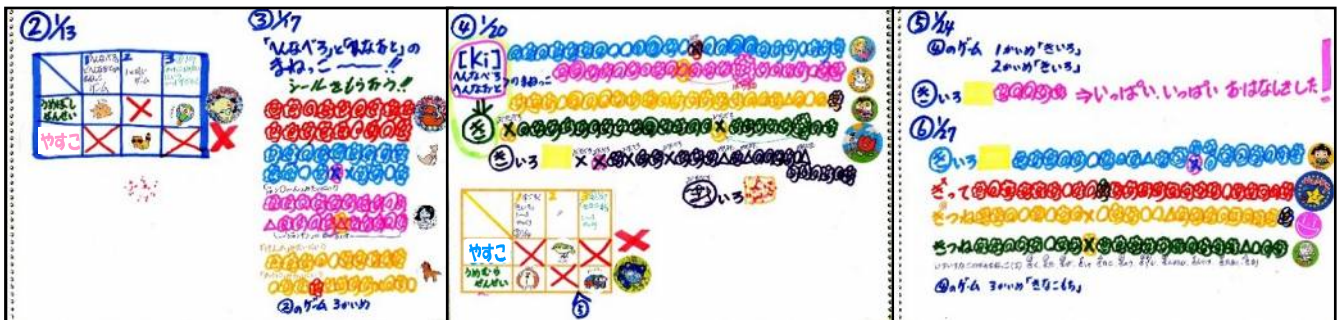
年中児まさき君への「チ・シ」の構音(点)指導のまとめ

12時頃 ~ 13時

昼食(館内にレストランあり)・休憩

13時頃 ~ 16時頃(途中休憩あり)

∞ 年長児やすこさんへの「キ・ケ」の構音(点)指導



- 初回面接時(通室初回目)における構音検査の結果から(約10分)
 - ・ 誤り音の把握と側音の構音運動の観察
- 通室2回目(Full=約38分)の指導の視聴と解説
 - ・ 構音点指導への導入: “へんなべろとへんなおとのまねっこ” = 『模倣を楽しむ・褒められる』
- 通室3回目(Full=約39分)の指導の視聴と解説
 - ・ [ke] の構音(点)指導: “へんなべろとへんなおとのまねっこ” = 『へんなまねっこ』から単語の練習へ
 - ・ [カケッコ] の構音指導: “まねっこすごろくゲーム”
- 通室4・6回目(ダイジェスト約30分)の指導の視聴と若干の解調音化構音への指導は、難しいわけではない

年長児やすこさんへの「キ・ケ」の構音(点)指導のまとめ

16時頃 ~ 16時30分<終了>

全体まとめ: 構音指導の全体像(概略)と構音指導の2つの要素 他

- ◎ 構音指導の全体像(概略)
- ◎ 構音指導の2つの要素 { 音づくり: 構音(点)指導 = 子音や音節レベルで構音ができるようにする指導 = 質的指導
 構音練習: 社会化へのステップ(プログラムの必要性) = 量的指導 <後期講座で詳細の解説>

悩みは私の方が深いかも…

< 小学2年男子の母親 >

のぶお君が、母親と一緒に相談にみえました。母親と話をしている、すぐに気が付きました。母親の発音の中に「キ」や「ケ」の側音があることに。

母親から発せられた「悩みは私の方が深いかも…」は、同じ発音の誤りをそのままにしていた自分の過去を振り返り、「将来自分と同じような経験をするのじゃないか？ 我が子の発音が本当に直るのか？」と、将来への不安を抱きながらも我が子への愛情を吐露した言葉と受け止めました。

母親に、近年ことばの教室では、「キ」や「ケ」の側音化構音に対する指導を軽んじる傾向があることを説明し、ご自分の体験をまとめていただきました。感謝いたします。

HPからのレポートのダウンロード：側音化構音のある母と子の指導－側音 / ki・ke・kj・gi・ge・gj / の指導経過の比較－

私は人と話をするのが好きです。が、人と話をすることにコンプレックスを感じています。それは、私の発音が他の人と違うことに気が付いたからです。

自分の発音が他の人と違うことに気付いたのは、大学生の時です。それまでは、「ちょっと言い難い言葉があるな」とか「口がまわらないなあ」と思う位で、他の人から指摘されたり、笑われたりすることもなく、「気のせいだ」と思い込んでいました。

ところが、大学時代のある日のこと、突然「佐藤さん“き”って言ってごらん。」と言われたのです。自分でも言い難いと感じていた発音でしたが、「あなたの“き”なんか変だよな。」と言われ、驚きました。さらに続けて、私の真似をしてその人が言った“き”の発音は、私が聞いても変だと感じましたし、『自分の発音は他の人と違う』と自覚をした最初です。それからと言うもの、“キリン”や“ペンギン”がうまく言えないということで、時々ふざけては「キリンって言ってみな」、「ペンギンって言ってごらん」などとからかわれるようになりました。そんな時私は、みんなの前では笑っていても、心の中では深く傷ついていました。「どうして言えないのだろう？」とアパートで一人、鏡に向かって発音の練習をしてみました。なかなか上手に言えるわけもなく『嫌な発音だ』と諦め、大学生活を送るようになりました。

大学卒業後、教員として働くようになると、ますます自分の発音が気になるようになってきました。生徒の前で教科書を読んだり、マイクを通して全校生の前で話をしたりすると、笑われたりすることはありませんでしたが、とても緊張し苦痛の連続でした。

結婚すると、さらに嫌なことが増えました。それは、自分の名字にある“き”がうまく発音できず、よく聞き返されるのです。特に電話がだめです。何回も言い直し、最後には「か、き、く、け、このきです」と言うことになります。

最近、ある病院の先生から、長男の発音について指摘を受けました。実は長男も私と同じような発音で「ちょっと変かな？」とは思っていたのですが、私もそうであるように“上手に付き合っていかなければならないこと”なのだと思っていました。さらに“ことばの教室”への通級を勧められました。私の発音を聞いて育った長男のことですから、私は母親としての責任を感じ、悲しい気持ちになりました。反面、早く気づき、治すチャンスなのだと思うと少し楽な気持ちにもなりました。

私も小学生の頃、“ことばの教室”への通級を勧められたのだそうです。しかし、私の両親は通わせることはありませんでした。“ことばの教室”に対するイメージなど様々な理由があったのでしょうが、結果として大人となった今でも嫌な思いをし、苦勞しています。「小学生の時にしっかり練習していれば…」と思うと残念でなりません。

長男の通級の際、「指導が必要」と言う病院と「必要なし」と言う小学校の間で苦勞しました。関係機関の認識の違いを感じました。当然素人の私たちの“言葉や発音、ことばの教室”に対するイメージなど、いかにいいかげんなものであるか想像がつかず。

長男は“ことばの教室”へ通ってきれいな発音に変わるでしょう。最近、次男がたくさんおしゃべりをするようになりました。「次男の発音は大丈夫だろうか？」とても心配しています。

私は今からでも“大人のことばの教室”があるのなら通って発音を治したい。そして、どんな言葉も気にせず、思い切り話してみたいと思っています。

のぶお君の母親の手記から学ぶ事・学ばなければならない事

「今、目の前にいる子どもの誤った構音に向き合うということは、その子の未来に向き合うということ」
軽々しく「この程度改善したら…」 「[ki・ke]の側音は、意味として通じることが多いから問題にする必要はない…」と考える訳にはいかないのです！

「側音化構音は、指導が難しく、なかなか改善しにくい」という伝承は、あなたで終わりにしませんか？！